

特集 頭巻 組合紹介

協同組合ベイトウン尾道

活力ある開かれた街へ ～まちづくりをキーワードとした 組合活性化への挑戦～

理事長
福井 弘 氏



卸団地を取り巻く 環境の激変

当組合は昭和47年、尾道の卸団地（集団化事業）として開設されました。尾道は、北前船寄港地として古くから商人の町と栄え、近年は西瀬戸自動車道（しまなみ海道）、尾道松江線が整備され、山陰、山陽、四国を結ぶクロスポイントとして重要な地となっています。

組合開設から半世紀を経て、他の卸団地と同様、組合員の主業種である卸売業の減少、企業間格差の拡大

など、卸団地を取り巻く環境は、激しく変化してきました。

また、高度化資金（集団化事業）の完済や転貸融資事業の終了など設立当初の主要事業が役割を終え、組合共同設備（冷凍倉庫、給油所、組合会館）老朽化への対応など喫緊の課題



卸団地の外観

に加え、組合訴求力も低下しつつあり、新たな組合目標の設定が必要と感じていました。

産学官と連携した活性化 ビジョン策定への取り組み

新たな組合目標の設定に当たっては、組合員がこの地で商売していることを誇りに思えるように、組合としてどうしていくかを主眼に組合員に共通する利益をあらためて見つめ直しました。結果、地域の利便性を向上させ、活力のある街を作ることが組合の価値を高め、共通の利益につながると考えました。

そこで、平成20年、地元行政や大学、関係機関等の協力も得て“新しい時代に対応したベイトウン尾道”を検討、活性化ビジョン「人と情報が行き交い活発な事業活動が行われる、開かれた街の形成」を策定、3つの基本方向（①就労しやすい街に向けた環境整備、②商都尾道としての経済活力源形成、③地域連携と魅力ある街の形成）を定めました。

組合事業としてのまちづくりに取り組む際に様々な世代に参画してもらい、委員会や部会を通じてコンセンサスを形成しながら進めています。

ビジョンに沿った新たなハード、ソフト事業への取り組み

平成21年度から27年度にかけ



すいみい保育園

放課後児童クラブ

大型商業施設

て、卸商業団地機能向上支援事業（全国中央会助成事業）を活用、ビジョンの具現化に取り組みました。

組合員の事業活動を補完する従来の組合活動から大きく一步を踏み出し、将来に向けた事業活動の環境を、組合自らが作り出していく「まちづくり」の試みです。

まず、組合会館は平成27年11月に隣接駐車場へ移転、跡地に大型商業施設を誘致、団地内に一般消費者が流入するようになり、新たな賑わいが創出され、これに合わせて業種転換する組合員も見受けられるようになりました。

また、人材確保がこれからの企業経営上の大きな課題になると捉え、就労しやすい街に向けた環境整備にも取り組みました。

尾道市と連携し組合会館内に子育て支援施設や放課後児童クラブを設置、さらに今年3月に団地内保育所「すいみい保育園」を開園、子育て世代が働きやすい団地へと生まれ変わりました。

今回の事業を進める中で、広島県からの助言もあって、組合として経営革新計画の認定を受けました。活

性化ビジョンに加え経営革新計画で詳細な事業計画を策定したことで、組合が対応すべき課題やその解決のための道筋が明らかになり、これからのビジョンの実現可能性を高めることに役立ったと思います。

さらに、施設整備に高度化資金を活用するにあたり、従来であれば組合役員の連帯保証が必要でしたが、関係機関のご尽力と共に、経営革新計画で事業性を評価されたこともあり、団地組合としては全国で二例目の銀行保証で対応することができました。今後は、活性化ビジョンの残された課題で全国の卸団地の共通課題でもある、連棟老朽化の問題に取り組んでいきます。

近隣地区を巻き込んだ 新たなまちづくりへの挑戦

組合がある東尾道西地区は工業団

地、魚市場、当組合で形成されており、周辺の住宅地と隣接しています。この地区が将来にわたり発展していくためには、地域一帯がどのような機能や特徴を備えた街を目指すのか、地域や行政と当組合を含めた事業者が最初からビジョンをしっかりと共有した上で、地域が一体となったまちづくりを進めて行くことが重要だと考えています。

その手始めに、放課後児童クラブや保育所の開設では、地域住民にも広く利用を拡大しました。その他にも、賛助会員制により、近隣地域の企業と当組合の関わりも徐々に深まっています。

ベイトウン尾道は、これからも新しい事業所が次々に生まれるよう、「活力ある開かれた街」づくりを目指して行きます。

（取材：福山支所 石本哲也）

協同組合ベイトウン尾道

広島県尾道市東尾道4-4
TEL：0848-20-2000

